

5月度 定例会

講演会「プラスチックだらけの海」を聴講して

2019.5.31 地球環境に学ぶサークル 中島峯生 記

開催日時：2019.5.11（土）14:30～16:50

場 所：ウェスタ川越 生涯学習活動室3号

主 催：西埼玉温暖化対策ネットワーク

講演 題名・講師：

1. 「海洋プラスチック問題が私たちに及ぼす影響」講師・容器包装の3Rを進める全国ネットワーク
副運営委員長 中井八千代氏
2. 「海から見る地球」～プラスチックだらけの海
講師・テクニカ海洋研究所 環境活動家 武本匡弘氏

写真はテキストの表紙荒川河口付近のたまるプラスチック容器
非常に良い講演会でしたので、その概要を報告します。



1. 「海洋プラスチック問題が私たちに及ぼす影響」講師 中井八千代 氏

以下、講演資料の抜粋をしました。

(1) 増加するプラスチックの生産量

年間3.8億ト 生産され、毎年800万ト以上のプラスチックがゴミとして流れ込む。

(2) ごみ・リサイクルの歴史

1970年大阪万国博覧会、1970年代新聞雑誌の集団回収始まる。

1980年代缶飲料が3倍増、自動販売機の急増⇒リユースびんの減少

1980年後半 多くの自治体でリサイクル：リサイクル費用の拡大

1990年代 プラスチック製造量倍増

1995年 容器包装リサイクル法が制定される。

2000年 同上 完全施行

2006年 同上 改正（第1回）、2014年～16年 同法 改正（第2回）

(3) 容器包装リサイクル法のポイントと問題点

- ①総リサイクル費の80%以上が税金

②現在の最大の問題点

- イ) プラ容器完全実施自治体全国で約7割、
- ロ) ゴミとして燃やしている。ポイ捨てに繋がり海ごみになっている。

(4) 海洋漂着ごみの問題

①マイクロプラスチック：5mm以下のもの、含有/吸着する化学物質が食物連鎖に取入れ、生態系に及ぼす影響が懸念される。

一次的マイクロプラスチック：マイクロサイズで製造されたもの。マイクロビーズ等排水溝などを通じて自然環境中に流出、洗顔料、歯磨き粉等のスクラブ材料等に使用

二次的マイクロプラスチック：自然環境中で破砕、細分化されマイクロサイズになる。大きい内に回収してしまう。

②環境省の資料：漂着ペットボトル、太平洋側・日本製のもの、東シナ海/日本海側・中国、韓国製が多い。日本周辺海域では、北太平洋の16倍、世界の海の27倍ある。また、北極や南極でもマイクロプラスチックが観測された。

③東京都の啓発ポスター

「東京のポイ捨てが、太平洋の海ごみになっている。街でのポイ捨てが雨や風に流され河川や水路等に入り込みやがて海まで流れ出て海ごみになる。海ごみ対策をしませんか。等」

1年間でペットボトル1億本が散乱（2017年度年間227億本が販売され、リサイクル率84.8%約34億本リサイクルされず、内3%の約1億本が散乱ごみになる）

*所沢市：広報ところざわ6月号特集「海のカメさん所沢に行く～所沢市民が海を救う～」

「軽くて丈夫、しかも安価で手に入りやすいプラスチック製品。いまや私たちの暮らしに欠かせないものです。しかし、そんな便利なプラスチック製品が使い捨てられてごみとなりポイ捨てや間違った分別などの結果、川を通じて最終的に海を汚していることをご存じですか？・・・」

(5) EUで進むサーキュラーエコノミー（循環型経済）：これまでの資源循環の効率化だけでなく、石油等の原材料に依存せず、既存の製品や遊休資産の最大限の活用などによって利益を生み出す経済システム。欧州では家庭ごみのリユース・リサイクル率を2030年までに100%にするという高い数値目標が掲げられ、レジ袋、プラ容器のリデュースも推進されている。リース・レンタル・シェアリングなども含め国際競争力の向上、持続可能な経済成長、新規雇用創出など期待されることからこれの実現を経済成長戦略の一つに位置づけている。

(6) まとめ

私たちに出来ること、使い捨てプラスチックは買わない、貰わない。マイボトル・マイバックを持参する。

ばら売りや簡易包装のものを選ぶ、レジ袋有料化やノートレイなどを実践しているエコショップを利用する。リサイクル出来るものはきちんと分別して出す。ごみを出すときは風に飛ばされないようにする。ポイ捨てはしない、させない。街や川・海のごみ拾いを友人達も誘い、積極的に実施する。 国に川・海にごみを流出しない仕組みをつくるように働きかける

2. 「海から見る地球」～プラスチックだらけの海 講師 武本匡弘 氏

ヨットでの旅は海・空・風の変化がただならぬことを伝えてくれました。そしてプラスチックのごみだらけの海！夜間航行中にも船体に当たるゴミとの衝突音の恐怖。

気候変動・サンゴの危機：サンゴの白化は何を語るのか？異常に高い海水温。洋上で起きる典型的な現象、局地的低気圧や巨大積乱雲の発生、複数の洋上竜巻発生、水位上昇だけでなく、太平洋の島々の風の変化や気温上昇。

海洋汚染：日本～マーシャル間で目にした大量のゴミ。他船に会うことはないがゴミだけは毎日目にする。

*武本匡弘さんのHP 多くの海洋写真を見ることが出来ます。

西埼玉温暖化対策ネットワーク（西温ネット）のHP この講演会の模様等活動を掲載しています。

注：西温ネット：西埼玉地区10市2町による環境問題に関心のある県民による会

以上